

チム九

印刷を支え加工を活かす

木村 義明

工場本部 爪破 (中綴じ)

2008年(平成20年)12月に中途入社し、現在は爪破工場の中綴じ部門に所属する木村義明さん。日頃は、機械のセッティングや製品の検品業務などに携わっている木村さんに、仕事に対する思いや、今後の目標を伺いました。



——はじめに、入社のかっこつけを教えてください。

かつては同業他社で中綴じ製本の仕事に従事していました。ところが、私もたくさんお世話になったその会社の社長が引退。それ以降、入ってくる仕事の量が減少し、転職を考えるようになりました。退職後、ハローワークに通って就職活動をする中で、旭紙工株式会社の人票を見つけたんです。経験のある製本業に加え、自宅からも比較的近い点も魅力に感じ、まずはアルバイトとして勤務をスタート。その数か月後、本社の人事異動の際に正社員となり、正式に入社を果たしたのです。

——これまでに失敗してしまった経験はありますか。

以前、針金不良の製品を流出させてしまった経験があります。一度納品したものを回収し、再検品しなければならぬ事態となりました。お客様はもちろん、社内のみなさんにも大変ご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。この失敗を機に初心に戻り、丁寧に作業を行っていかねければと深く心に刻んだので

に機械を回すことができ嬉しく思いました。

——仕事をする上で心がけている点、やりがいを感じる時を教えてください。

「無駄をなくす」そして「きれいな荷姿」の2点には特にこだわっています。そのために、作業工程を見直したり、可能な範囲で変更したりしながら、1分でも1秒でも無駄を減らしているように工夫して臨んでいます。

いつも1日の作業内容を見ては、自分なりの目標を立ててから業務に取りかかっています。目標よりも多く生産できた時はもちろん、手間のかかる容易ではない作業が順調に稼働しているのを実感した時に、やりがいを感じます。

——旭紙工がさらに良くなるために必要だと思うことは。

仕事の引き継ぎや連絡、そして報告や指示がしっかりできないと、どうしても無駄な時間が発生してしまうものです。上司と部下、そして作業員同士の連携をしっかりと図っていくのが大切

だと思えます。また、他部門との密な連絡も欠かせません。

それから、スタッフ全員が危険予知の意識を持つことも必要です。そのためにも、朝礼の時間を利用したり、講習会を開いたりして「こんなことをしたら、こういうクレームにつながる」という実例を示しながら、注意喚起を絶やさないようにするのが良いかもしれません。

——最後に、この先の目標をお聞かせください。

プレミアムのセッティングや貼り込みの作業など、これまでに手がけたことのない仕事を、できるだけ早く習得していきたいと考えています。業務の幅を着実に広げながら、知識を増やす努力をして、スキルアップを目指します。

工場内はきれいで広く、仕事しやすい恵まれた環境であることに感謝しているという木村さん。「この状態を引き続き維持していくことも自分たちの使命」と語ってくださいました。これからも木村さんは誠心誠意で仕事に向き合い、多くを吸収していくでしょう。



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績



私は普段、中綴じ機のFOXをメインに担当しています。ある時、それまで別の機械を使っていた「OKK」と「市報わかやま」にも、FOXが使えないかと思い立ちました。そこで、自分で機械を整備。工場長に「今度からFOXを使わせてもらえませんか」とかけ合い、了承をいただきました。いざ進行させてみると、想像以上に順調

です。それ以降は作業中に眼鏡をかけるようになり、一つひとつ確実に業務を進めていこうと肝に銘じました。

——自身でやりきったと感じた仕事は。

設備紹介

— KH82 —



私が紹介します！



工場本部
本社工場長
ありまつ けんじ
有松 健二さん

今回ご紹介するのは「KH82」！ページ折加工では、工場内でダントツの生産能力を誇ります。度重なるトラブルに苦心する部分もあるようですが、KH82の魅力について、たっぷり伺いました！

圧倒的な
生産能力！

Q.どのような設備なのでしょう？

本文を製本する機械です。他の機械と違う点としては、折れる紙のサイズの大きさと、生産スピードのバランスの良さが挙げられます。一般的には紙のサイズが大きいと、その分スピードが制限されるものです。しかし、KH82は高圧力のエアを動力としているため、16ページ折でも、1分間で250枚以上の折加工が可能です。これは、同メーカーの旧式機械と比べても、倍以上の生産能力です。機械自体の値段は張りますが、大量に生産できる分、コストは安く済みます！



センサートラブルに
あたふた……

Q.KH82で苦勞する点がありますか？

オートメーションに特化しているが故に、センサートラブルが多いのが難点です。昔の機械にはセンサーが少なかった分、センサートラブルを経験することはそれほどありませんでした。ただKH82については、紙のサイズを測るセンサー、紙詰まりを検知するセンサーなど、様々なセンサーが多数搭載されているため、センサートラブルが頻発しがちです。加えて、センサートラブルは見た目だけでは異常が分かりません。そのため、問題が起こる度に自分で調べたり、メーカーに聞いたりする必要があります。手間はかかりますが、念入りに確認をして、新しい知識を積み上げることを繰り返しながら、若い社員を含め、皆で経験値を上げている真っ最中です。

メンテナンスは
念入りに

Q.使用上の注意点を教えてください。

操作するにあたり、資格や免許は他の機械と同様、必要ありません。ただ、定期的なメンテナンスとして、1週間に1度ほど、グリスアップを行う必要があります。そして、KH82の動力の要であるコンプレッサーの掃除も欠かせません。また、怪我をしにくい機械ではありますが、KH82の鉄板の上に、紙を積載した木製のパレットを置く際、足を挟まないように注意が必要です。もちろん、紙以外のものを載せるようなこともないように……！

1機だけでも
この威力！

Q.現在KH82は何機ありますか？

3～4年前に1機導入したのみです。ただ、1機だけでもその能力は凄まじく、これまで外注で頼んでいた分を含め、全て当社だけで生産できるようになりました。現段階では、他の機械との併用で十分間に合っているのでも、これ以上購入する必要はないと考えています。そもそもKH82は、国産の4～5倍はする超高額機械なので、何台も購入するのは現実的ではありません。ただ、使ってみれば、その価格に見合うだけのスペックの高さが分かります！



オペレーターは
2人体制

Q.現在この設備を使用できる方は何名いらっしゃいますか？

基本的に誰でも使える機械ですが、KH82担当のオペレーターは、社員の西さんと、ベトナム人のサンさんのお二人です。



目指せ、
月100万枚

Q.今後の展望

KH82だけで、月100万枚の折加工を目指しています。これだけの能力はある機械ですし、稼働させればさせるほど、コストパフォーマンスも今より上がるはずですが、営業の方には、ぜひ仕事をさらに持ってきていただければと思います！